PROGRAM NOTE　2022 年 4 月

淀橋協会110周年記念　聖地巡礼ヨルダン・イスラエルの旅

聖地巡礼の一行総勢 27 名は 2015 年 1 月 22 日、成田空港を出発して 11 日間団長の峯野龍弘先生と共にヨルダン・イスラエルを旅しました。当地は雨期にもかかわらず、終始平穏な天候に恵まれ、死海に架かる大きな虹のアーチをくぐり抜けてエルサレ ム入りをするという祝福に満ちた旅となりました。訪問地ごとに語られる峯野先生の説話と教会員の皆様との親しい交わりのうちに全身全霊を満たさ れるこれまでにない恵まれた日々を過ごすことができました。

モーセ最期の地ネボ山頂にて： 旅の初日にヨルダン死海浮遊体験をした翌日、 一行はモーセの約束の地カナンを眺望したネボ山ピスガの頂きに立ちました。♪静けき祈りの」(讃美歌 310、新聖歌 190)を賛美 しながら、波乱に満ちたモーセの荒野の４０年の苦しみ、涙、痛み、叫びの生涯をふりかえりました。モーセは１２０歳の生涯を閉じようとする時には、夢にまで見た約束の地を目の前にしていたのですが、しかし、主はモーセに言われたのです。「あなたはそこに渡って行くことはできな い」(申命記 34:4) と。モーセはこの時、まだ山頂に登れるほど気力があり、遠くの地を見渡せ るほど目もはっきりしていたにも関わらず、主の僕であるモーセは最後まで主に従ってその生涯を閉じたのです。その日、峯野先生はモーセの生涯につてこう語られました。「誰よりも謙遜であったモーセは、自分の死に際しても従順でした。指導者としての使命が若きヨシュアに託れることで、イスラエルの民はそろって約束の地カナンへとさらに前進することができたのです。」と。私にはモーセの主に対する潔さが強く心に残りました。

エルサレム聖地にて： 5 日目の金曜日夕方、夢の都エルサレム市内に入りました。すでに安息日が始まっていたので、街の商店街や通りは人影がまばらでした。翌日、オリ ーブ山の上からユダヤ教の嘆きの壁、聖墳墓教会、イスラム教の岩のドームなどを一望することができました。そのあと、画期的な「クムラン死海文書について」の牧師合同セミナーに参加。ヤド・バシェム(ホロコースト博物館)見 学。BFP フードバンク、鶏鳴教会、自治区ベツレヘム、ナザレの聖母マリア・センターなどの聖蹟をたずねました。イスラエル滞在三日間を通じて、とくにイスラエル の平和への祈りの必要に迫られました。世界の観光客で溢れるヴィア・ドロローサ(十字架の道行) の狭い道々や ベテスダの池なども歩いて回りましたが、疲れを感じなかったのは 聖地での癒しの力に違いないと感謝しています。

ガリラヤ湖畔にて： ガリラヤ湖では、湖畔で二泊。突風でよく中止になるガリラヤ湖上遊覧も、穏やかだったので 船上でイスラエルのダンスをみんなで楽しみました。エルサレムでは園の墓、山上の垂訓教会などをたずね、朝早くにはティベリア海岸で三回目の聖餐式が行われました。ガリラヤ湖畔は主の弟子たちが立ち上がる原点となった場所でした。 弟子たちに「人間を漁る漁師に」と声をかけられた主は、あとで 主を否んでしまったペテロにさえも「ペテロ、私を愛しているか」と近づかれて信頼関係をとりもどされ、ふたたび立ち上がったペテロは生涯を捧げて主のために伝道に全身全霊を注いだのです。私はカペナウムに沈む夕陽やティベリアで昇る朝陽の美しさに、この主の圧倒的な赦しとご愛を感じさせられました。「私は再び 来る」と約束された主の再臨にも思いを馳せながら「主よ来たりませ」と心から祈らされました。（淀橋教会副牧師　千葉維保子　2015 年記）

サタデー・トーク

きき手 尾崎一夫　毎週土曜日放送	
４月０２日	マリンバの調べ
４月０９日	女ばかり南米大陸をゆく（３）
４月１６日	クリスチーンのアメリカ発見（フィラデルフィア）
４月２３日	南米ふれあいの旅　梶村均次（３）
４月３０日	日本語放送開始記念特別番組（１）

バイブル・トーク

淀橋教会　峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
４月０３日	聖地巡礼の旅（１）
４月１０日	リスナーからの『お便り交換の時間』
４月１７日	聖地巡礼の旅（２）
４月２４日	聖地巡礼の旅（３）
５月０１日	日本語放送開始記念特別番組（２）

放送後の番組は、ホームページ(http//japanese.reachbeyond.jp) のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただきます。（mp3 形式）

REACH BEYOND VOICE+HANDS,TOGETHER

放送時間：日本時間　午前 7 時半~8 時 15410kHz　(再放送)　午後 8 時 ~8 時 30 分 15.565kHz
（米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信）